

令和5年10月20日

三田市長
田村 克也 様

三田市議会市民の会
檜田 充
美藤 和広
肥後 淳三

令和6年度(2024年度)三田市予算編成に関する申入書

田村市長におかれましては、7月に実施された三田市長選挙において、激戦を征し市長に就任されましたこと改めておめでとうございます。全ての市民の福祉向上と安全・安心のまちづくりに向け、民間のアイデアを活かしながらも行政の継続性に配慮をはらいご尽力されますことを心より願います。

さて、急激な人口減少・少子高齢社会をむかえる中、本市が抱える課題も山積しています。6年もの年数をかけて作り上げてきた「市民病院」と「済生会兵庫県病院」の再編統合、子どもの減少による「園・学校」の適正規模・適性配置、ニュータウン開発による行政需要の増加に伴い整備された公共施設の老朽化による見直し、環境施策の砦であるクリーンセンターの建替え等々の課題に正面から向き合い解決していくことが求められます。

さらに5類へ移行したとは言え3年半にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症による市民生活の変化への対応や依然として窮状にある市民への支援も必要です。

私ども「市民の会」では「市民だれもが安全で安心な社会の実現」を心から願い、将来の社会基盤の根幹となる少子高齢化対策をはじめ、介護基盤の充実、障害者・高齢者の生きがい対策、健康福祉社会の実現、産業の活性化、雇用対策の充実、地域・学校の安全確保、新たな三田の教育の推進、三田の魅力を活かした情報発信等市政全般に渡る申し入れ項目を取りまとめました。

田村市長には初めての当初予算編成になりますが、民間出身の市長として民の力を活かせる「健全で安定した市財政」「民間の活力溢れる三田」そして「市民の笑顔が輝く三田」となりますことを強く要望します。

以 上

市民の会予算要望書

感染症対策

番号	内容	提案年度	種別
1	国・県と連携した情報の把握と市内状況の収集と適切な時期・内容による市民への周知を図ること。	R2	継続
2	市民病院をはじめとする医療体制の維持を図ること。	R2	継続
3	感染者の受け入れ態勢の整備・維持を図ること。	R2	継続
4	コロナ感染症に感染後の後遺症（うつ、味覚障害）に悩む患者へのケア体制の充実を図ること。	R2	継続
5	感染の再拡大に十分注意しながら、ウィズ／ポストコロナへの対応を図ること	R4	継続

総合政策（政策調整・未来戦略）、経営管理（行政管理・財務・歳入推進）

番号	内容	提案年度	種別
1	市長が掲げる「元気な三田をとりもどす」の実現とともに、若い世代を中心に人口の維持増加を目指すこと。	H27 /R4/R5	強化
2	市民に寄り添い、職員とともに事業推進する市組織の構築・強化を図ること。特に組織は、市民に分かりやすく、言いやすい体制・名称とすること。また、負荷が集中する課の仕事配分も見直すこと。	H27/R4/ R5	強化
3	行財政構造改革の推進により健全財政を維持すること	H27 /R4	継続
4	各事業を維持可能な人材を確保するとともに、適正な人件費の維持に努めること。特に、DXに対応できる人材の採用と育成を急ぐこと。	H27/R4/ R5	強化
5	働きやすく暮らしやすい魅力あるまちとして、多くの人や企業を呼び込むこと。	H27	継続
6	第5次総合計画に基づき、人口減少要因を徹底的に分析し、人口計画を見直し、対応策を実践すること。	R2/R4	継続
7	市民との双方向情報発信による広報広聴のあり方の研修と刷新。スマホ利用世代と紙世代の2重化を考慮しながら、市民発信を図ること。	R2	継続
8	産官学地域連携とUIターン促進事業を活発に事業展開し、若者の転入を図ること。	R2	継続
9	学生のまちづくり活動を活性化し、サンタ×三田プロジェクトなど、学生等を主体としたシティプロモーションを図ること。	H30 /R2	継続
10	スマートシティ構想について、 ①デジタル化推進体制を強化し、三田らしさを織り込んだスマートシティを市の魅力とすること。 ②デジタル田園未来都市を実現し、デジタル技術を活かしたアイデアを行政サービスに反映できるように、職員の育成、外部人材の登用を図ること ③新技術を持つ企業や大学との連携を図ること。 ④若者世代の想像力やアイデアの活用などを進めること。	R2/R4	継続
11	デジタル化推進として、 ①情報資産のセキュリティ対策を一層強化すること ②市全域のネットワーク環境を整備し、庁内ネットワークとの連携強化を図ること。 ③市民誰もが使える自治体DXの推進を図ること。	R2/R4	継続
12	市民病院の改革において、将来の医療需要を鑑み、地域の中核病院かつ高度な専門医療と救急医療を中心とした急性期病院として、住民に安心・安全な医療提供体制を確保すること。	H30	継続
13	北神・三田急性期医療連携を密にし、小児救急をはじめ安心を確保すること。	R2	継続
14	持続可能な安心医療を提供できる医療施設の構築に向け、再編統合を速やかに図るとともに、市民への説明と安心できる未来図を示すこと。	R2	継続

15	再編統合後の現三田市民病院の跡地・施設利用については、現行の医療制度で不足する回復期・慢性期の充実を図るとともに、子育て支援・休日応急診療・高齢者や障害者向け医療充実に向けた施設への転換を図ること。	R3/R4 /R5	強化
16	大規模災害に向けた防災体制の確立と、市民の安心安全確保に向けた情報管制と情報伝達の諸施策に積極的に取り組むこと。また、高齢者や障害者住宅に対する家具転倒防止器具等の設置について最優先で取り組むこと。	H23/R4	継続
17	近年の暴風や豪雨を想定をした、建築物や排水路等インフラ整備にかかる規格の見直しを図ること。	R1	継続
18	武庫川の決壊や緊急放流の影響を考慮したガイドライン構築を図ること。 また、内水氾濫に対してのガイドラインの構築を急ぐこと。	R1	継続
19	ニュータウンの生活道路については、全域をゾーン30に指定し、自動車等の交通事故から市民の命を守ること。	R4	継続
20	公共施設マネジメントにおいて、市民に提供する施設サービスの水準を維持し、適正な配置を進めると共に地域の願いを反映するよう努められたい。 コストと年度間平準化を考慮しながら、個別施設計画の策定と進捗管理を図ること。	H27 /R1	継続
21	各種団体への補助金・負担金の使途・効果を把握し、見直しを進めること。併せて、加入団体分担金・負担金も必要性等を見極め、見直しを実現すること。	H23	継続
22	防犯カメラの設置・運用を検証し、さらなる地域防犯体制の強化を図ること。	H30	継続
23	働き方改革の推進を図ること。 ①情報共有の推進と、議会提出を含め、庁内書式・様式の統一 ②AIを含むICT化促進により、作業効率と業務効率化の仕組みの構築と教育 ③窓口キャッシュレスを促進し、電子キャッシュフローの確立 ④電子決裁に向けた業務フローの確立 ⑤時差出勤やフレックスタイムの一層の有効活用と時間外勤務の縮減 ⑥会議の効率化・適正化 ⑦GISを用いた地図提供などオープンデータへの取組 ⑧市民センター間のWeb会議 ⑨窓口業務の情報共有と見える化の促進	H27 /R1 /R2 /R3 /R4	継続
24	情報公開の徹底を図ること。	H23	継続
25	情報化時代を鑑み、情報化計画の策定と5Gなど高速無線通信の早期実現を図ること。また、公共施設に市民向けWiFi環境の充実と周知を図ること。	H30/R1/ R3/R5	強化
26	研修制度の充実による職員のスキルアップとモラルの向上及びメンタル等の健康管理を図ること。	H23	継続
27	国・県情報を先取りし、徹底した財政縮減と税収納の強化を図ること。	R2	継続

地域共創（市民協働・産業戦略）

番号	内容	提案年度	種別
1	市民センターの運用について、効率化を図ると共に、地域活動を支援するよう努めること。 ①駐車場管理の統一化を図ること。（各市民センター入出ゲートの管理等） ②機能や貸館ルール、利用料の見直しを行うこと。 ③設備の補修や更新の支援を図ること。 ④地域活動拠点として機能増強を図ること。（テレワーク等使用目的に配慮した騒音と動線確保のための施設配置） ⑤市庁舎との連携強化とネットワークを強化すること。 ⑥市民団体の活動情報を発信する仕組みを整備すること。 ⑦各職員の情報技術を含む養成を行うこと。	H27 /R4 /R5	強化
2	地域担当及びサポート職員は、自治会を始めまちづくり協議会と情報を共有し、地域課題の集約に努めること。また、その課題解決に向け地域活性化のための予算を付与すること。	H24 /R1	継続
3	自治会やまちづくり協議会について、 ①自治会やまちづくり協議会の位置づけを明確化すること。 ②自治会の加入率低下を防ぐため、加入促進に向けたSNS導入による自治会改革などの支援を積極的に進めること。 ③自治会への回覧物のあり方などを見直すこと。 ④まちづくり協議会のふるさと交付金は、基本定額に加えて、人口規模や事業内容に応じて予算を追加できる制度に見直すこと。 ⑤包括交付金は、それぞれの地域課題に応じ、時間をかけて慎重に検討すること。 ⑥自主防災会への加入は、自治会の加入率低下の現状に鑑み、（仮）コミュニティ条例の策定時に強制加入についても検討すること。	R2/R3	継続
4	市民を中心とした国際交流の推進に努めること。また、姉妹都市連携の見直しと、市内在住外国人への日本語サロンなど連携強化を図ること。	R2	継続
5	兵庫県・三田市・関西学院大学連携協定に基づくインキュベーション複合施設等の建設に伴い、地域住民と大学及び学生の融合支援を図ること。	R3/R5	強化
6	いきがい応援プラザの一層の周知を図るとともに、退職後の「就労」「大人の居場所づくり」を積極的に推進すること。	H23	継続
7	特殊詐欺や違法販売など多様化する状況に市として情報支援強化を図ること。	R2	継続
8	図書館の市民サービス向上を図るとともに、自主事業を促進し、図書館を活かした運営を目指すこと。 ①三田駅前の図書館拠点の整備 ②図書館ネットワークの整備 ③移動図書館の見直し ④既存図書館の機能見直しと改修支援 ⑤図書館支援団体との連携強化と活動支援 ⑥図書やメディアの充実 ⑦駐車場周辺の整備	H29/ R4	継続
9	国体開催基準要項細則第2項に規定する施設基準及び各競技規則に基づいた大会誘致可能な体育館及び陸上競技場の整備を図るとともにプロや日本代表級の使用に対応できる施設として改修し、本物に触れる、大会を誘致できる機会をつくること	H25/ R4	継続
10	文化振興において、文化ビジョンに基づき市民とともに持続的な活動支援を図ること。 ①県のコレクションナリウムや市の歴史収蔵センターなど、収蔵物の連携と維持活用を促進すること。 ②収蔵物の常設展示場や収蔵庫として廃校跡地利用を検討するとともに、収蔵物のデジタル化等効果的な保存のあり方を検討すること。 ③中学校部活動地域移行に伴い、市民主体の文化育成を支援すること。	R4/R5	強化
11	スポーツ振興において、 ①各スポーツ協会の組織維持と運営を支える仕組みを整えること。 ②中学校部活動の地域移行を見据え、地域クラブの運用構築に向け準備を進めること。 ③障害者スポーツは地域で支える環境で、運営や指導者の人材育成を図ること。 ④障害者スポーツ活動の基盤として協会を設立し、障害者への理解と共生社会の実	H29 /R2 /R5	強化

12	マイナンバーカードの一層の普及とコンビニエンスストアで戸籍謄本等が取得できるよう市独自サービスの一層の充実を図ること。	H29/R2/R5	強化
13	観光政策については、三田市観光ビジョンに基づき、市の活性化に努めること。 ①新たな観光資源を掘り起こし、三田の観光に繋げること ②三田名物・土産物開発支援による商業の活性化と物産販売を行うこと。なお、物産販売については、三田駅周辺に総合物産販売所の検討を行うこと。 ③新たな観光地の掘り起こしには、地元との合意形成が必要となることから、駐車場の整備課題解決を含め、観光振興を図ること。 ④三田の歴史、自然、近接農業、ニュータウンなど他都市にはない三田の魅力を生かしたまちづくりを図ること。	H28	強化
14	三田牛等全国に誇る特産品の発掘とブランド化により、一層の振興・流通と市内で食することができる環境づくりを図ること。		継続
15	産業創造戦略に基づきインキュベーション施設を活用するなど三田の若者がビジネス展開できる環境整備と地域産業の振興・活性化を図ること	H26	継続
16	第三テクノパークを含めて、市内における雇用創出と若者の就労定着を目指すこと。併せて、市内中小企業対策も充実すること。	H30	継続
17	障害者雇用の実態を把握すると共に、三田市が率先して障害者の能力・実態に合った雇用の確保及び企業への法的雇用率達成を目指すよう指導・監督し、障害者が働きやすい環境をつくること。また、あわせて介護事業所の雇用の確保と介護士等の処遇改善のために、市の独自の施策を実施すること。	H30	継続
18	産業・労働政策推進の観点から、労働団体との定期的な懇談の場を設定すること。	H26	継続
19	若い勤労者が三田に住みやすい環境を支援すること。	H28	継続
20	三田・新三田駅前の活性化において、学生や若者、ファミリー等が余暇を楽しみ、幅広く交流の場として、アミューズメント施設等の設置など、人が集う活気あるまちづくりに向け検討すること。	H26	継続
21	農業振興を図り、地場産レストランの実現を目指すとともに、安心安全・良質な農産物を生産し、地産地消を推進すること。		継続
22	年々増加する有害鳥獣の根本的防止策を検討し、若手猟師の育成強化を含め、対処すること。また、あわせて捕獲した鹿やイノシシについて、自宅等での解体処理施設の設置補助制度等を創設し、ジビエ肉の流通等への活路を見出すこと。	R4	継続
23	既存商店街のあり方を見直し、将来に向けた取り組みを図ること。	H28	継続

子ども・未来(子ども未来・子育て応援)、共生社会(福祉共生・健康共生)

番号	内容	提案年度	種別
1	子ども庁の動向を注視し、市民だれもが安心して子育てができるまちづくりを進めること。	H26	継続
2	子ども食堂の整備を市内のすべての小学校区内に設置できるよう市民グループの組織づくりや運営支援を強化すること。	R4	継続
3	放課後児童クラブの安全と安定的な運営を図ると共に夏休み期間中の放課後児童クラブを補完する意味で、子どもの居場所づくりに対する地域や民間のグループ立ち上げを支援すること。 また、子どもの居場所を立ち上げたグループに対して柔軟な財政支援を行うこと。	R1/R4 /R5	強化
4	保育施設について、通園・通所バスも含めて施設設備の安全をしっかりと確保すること。	R1/R4	継続
5	青少年の健やかな成長に悪影響を及ぼす有害環境(ネットを含む)の点検及び青少年育成活動を充実すること。また、補導員の活動を支援・強化すること。	R1/R5	強化
6	市民の命と健康を守るため、地域医療連携の強化を図ること。	H29	継続
7	市民だれもが安心して暮らせるまちづくりに対応すること。 ①高齢者のフレイル予防体制の強化と元気な高齢者づくりの支援を行い切れ目のないサポートを実施すること。 ②各地域での認知症カフェなどの支援を図ること。 ③軽度認知症の早期発見体制と治療環境の整備及び充実を図ること。 ④介護保険制度を使い始める相談窓口の周知を徹底し、生活の不安を払拭すること。	H26/ R4	継続
8	社会福祉協議会の情報公開と人材育成を進め、全ての市民の理解と自立に向けた取り組みを進めること。		継続
9	社会福祉協議会の会費制度のあり方については、制度疲労を起している。 市民に公平感のある制度への転換を図ること。	R3	継続
10	人権尊重のまちづくりについて、「三田市人と人との共生条例」に基づき、人権研修・啓発をはかること。	R3/R4	継続
11	人権教育推進事業について市民の理解が得られるよう努めること。	H29	継続
12	視覚・聴覚障害等を持つ人が安心して暮らせるよう外出支援等、障害者福祉の充実に努めること。	H27/R4	継続
13	障害者支援において保護者の高齢化対策と亡き後の生活支援体制の確立を図ること。	R2	継続
14	生活介護施設や重度障害者が療育出来る放課後デイサービスなどのニーズ把握を的確に行ない、障害者(児)の希望に添えるようにすること。	R3	継続
15	福祉に関する相談窓口担当者のスキルアップを図ることともに、得た情報に対応できる環境の整備と充実を図ること。	H30	継続
16	高齢者の外出支援対策について、 ①幅広く先を見た対策を研究、実施すること。 ②運転免許返納が難しい地域に対する外出支援策の充実を図ること。	H23 /R1/R4	継続
17	小児救急医療体制の充実に努めること。また、小児科医等の協力を得て、病時病後児保育体制の強化に努め、子どもの命を守ると共に保護者の安心を確保すること。	H26 /R4	継続
18	三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査を踏まえ、貧困実態の分析に基づき、誰ひとりとして取り残さない対策を講じること	H30 /R1/R4	継続
19	18歳以下の医療費の無料化を実現すること。	R5	新規
20	保育の完全無料化を図ること。	R5	新規
21	ゼロ歳児のオムツ代の支援を行うこと。	R5	新規

まちの再生(都市政策・地域整備・ゼロカーボンシティ推進)

番号	内容	提案年度	種別
1	JR沿線利用者の利便性向上に向けて、通勤・通学時間帯の増便と共にアクセスの向上を図ること、さらにテクノパーク新駅設置を含めた駅ターミナルの拡大・充実を図ること。	H24/R1	継続
2	三田駅前Cブロックの再開発について、事業完遂に向け、積極的な支援を行うと共に駅周辺の狭隘道路については、緊急車両の進入に対応できるよう拡幅を図ること。	H26	継続
3	JR新三田駅周辺においては、マスタープラン見直しによる「都市核」を活かし、利用者の利便性向上に向けた見直しを図ること。	R2/R4	継続
4	JR広野駅前の周辺整備については、その費用対効果と地域の活性化を踏まえて検討すること。	H24	継続
5	JR相野駅周辺の整備については、早期の完成に向け、県・国への要望を強化するとともに、地元対策についても十分な対応をすること。	H26	継続
6	神鉄各駅周辺の社会変化に伴うロータリーをはじめ抜本の見直しを図ること。	R2	継続
7	神鉄公園都市線の延伸の調査研究を行うこと。調査には、代替交通や車内への自転車持ち込みの実現に向け検討すること。	R2/R5	強化
8	神鉄三田駅～カルチャータウン、テクノパーク、つつじが丘へのLRT化について高校や大学の通学、会社への通勤等地域公共交通をまちづくりの中心に据えて、地域公共交通計画に含めて検討すること。	R3/R5	強化
9	ゼロカーボンシティ宣言に鑑み、地域特性に応じた地域公共交通網(新交通システム)の実現を促進する対策を地域公共交通計画に盛り込むこと。	H28/R3/R5	強化
10	ウッディタウンの商業集積エリアの特性を活かした新交通システムの事業化のために地域公共交通計画に盛り込み、国の予算を活用して検討すること。	R3	強化
11	三田市民病院のアクセス等利便性の向上を図るために、新交通システムの導入など交通弱者に対応できる交通環境を整えること。	R1/R4/R5	強化
12	地域コミュニティ交通においては、運営モデルの検証と他地域への拡大を図ること。また、今後の学校再編をにらみスクールバスやコミュニティバスの一体的運用を検討すること。	R1/R5	強化
13	フラワータウン駅ビルへのバス停留所の位置変更に伴う利用者のアクセスの課題及びセンチュリープラザ前での渋滞緩和対策について引き続き検討すること。新路線開設に伴い、乗車人数が多いバス停留所については、バスシェルターの設置の支援をすること。	R4	継続
14	三田駅から市役所、総合文化センター等シビックゾーンへは、自動運転バス等でアクセス強化を行うよう地域公共交通計画に盛り込むこと。	R3/R5	強化
15	高齢者の免許返納支援について、 ①自動運転も視野に入れ、幅広く先を見た対策を研究、実施すること。 ②返納したくても生活を営むためには返納できない地域に対する外出支援策の充実を図ること。 ③高齢者の運転免許更新にかかる事前講習が混雑していることに鑑み対策を講じること。	H23/R1/R4	継続
16	土地利用について、市街化調整区域の抜本的な見直しと区域内の弾力的運用を図り活性化を図るなど、都市計画の見直しも含め検討すること。	H26/R4	継続
17	空き地空き家対策をまちづくりの課題として、対応策の積極的な推進を図ること。また、負の不動産処理の相談窓口を設ける等対策を講じること。	H24/R2/R5	強化
18	主要道路については拡幅、歩道整備を含め、交通安全対策の充実を図ること。(自転車通学への配慮、ロードミラー、横断歩道、及び信号機の設置等)		継続
19	街路樹等植栽について、安全対策を第一に、樹種や間隔の見直しなど、「街路樹の育成・管理に向けた基本方針」に基づき植栽管理の適性化を図ること。	H25/R2/R4	継続
20	道路の不具合通報アプリの存在を市民に周知し、道路の適正かつ安心安全な管理に努めること。	R3/R4	継続
21	道路施設や公園遊具施設については、老朽化対策や点検のあり方をDXを含め検討を行い、市民が安心・安全に利用できるようにすること。	R3/R5	強化

22	市内の公共施設、歩道・自転車道等除草についてアドプト制度や他市の事例を参考に「道の里親制度」を導入するなど市民との協働の取り組みを検討すること。	R3/R5	強化
23	市民の健康づくりの施設や競技用施設の整備及び視覚障害者のランニングコースの維持管理を適正に行うこと。また、体育館の冷暖房設備設置を図るとともに、熱中症などの安全対策を徹底すること。	H24/R5	強化
24	街区公園の管理においては、まちづくり協議会等地域への委託を図ること。また、効率的な刈草のあり方を地域に委ねること。	H28/R1/R4	継続
25	公園遊具施設については、不具合通報アプリの存在を市民に周知し、公園の安全安心な管理に努めること。	R3/R4	継続
26	平谷川緑地など身近な都市公園を整備し、憩いのあるニュータウンとすること。	R2	継続
27	野外活動センターの運営等の見直しについては、唯一の自然にふれあうことができる公園施設として「誰のための施設なのか等」の目的を再検証すること。また、つどい橋の改修に併せて、災害時に2方向避難ができるよう清水橋側からのアクセスルートも検討すること。	R5	新規
28	体育館施設の季節別利用時間を市民ニーズに合わせて見直すこと。	R3/R4/R5	強化
29	子どもたちが遊べる（スケートボード、ボール遊び、モトクロス等）場所について、公共資産（施設・未利用地）の活用を図ること。	R3/R4	継続
30	ゼロカーボンシティ推進については、 ①市民と一緒に推進していく必要性からも説明を十分に行うこと。 ②循環型社会実現のために太陽光、木質チップ、道路や田畑からでてくる大量の除草のたい肥化、さらにバイオ発電による地域への電力供給の研究及び木の駅プロジェクトの推進を図ること。 ③三田の里山、森などの保全や植林の定期的な伐採や材木の利活用について研究検討を進めること。 ④新設されるクリーンセンターの建設に伴い、発電の適正活用や新たな新技術の導入等を研究すること。また、児童への環境教育に資する学習施設を設けること。	H24/R4/R5	強化
31	太陽光発電設備の設置規制に基づき市民の安全を維持すること。	R1	継続
32	不法投棄を防止するために監視カメラの設置等対策を強化すること。	R1/R5	強化
33	聖苑・霊苑については、合葬墓の検証や樹木葬の需要を検討し、将来を見据えた効率的な運営を図ること。	R1/R5	強化
34	農業における野外焼却については、刈草回収を検証し、当事者の意見を尊重して市民誰もが理解できる施策を講じること。	H30/R1/R5	強化
35	森林環境譲与税を活用し森に棲む動物との共存共栄対策や豪雨対策として ①里山の整備を適正に行うこと ②落葉広葉樹の森づくりにより森ダムを推進すること	R1/R4	継続
36	（仮称）資源ごみの持ち去り禁止条例を制定すること。	R4	継続

上下水道

番号	内容	提案年度	種別
1	安全・清浄にして豊富・低廉な浄水の供給に努めること。		継続
2	効率的経営により料金の長期安定化を図ること。		継続
3	改定を実施した料金体系の検証を行い、持続可能な運営に努めること。	R4	継続
5	公共下水道事業において、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、コミュニティプラント事業の運用に関し、将来を見据え、合併浄化槽等への切り替えを含めた、検討を図ること。	R1	継続
6	老朽化した水管(橋)などの点検などを実効性のあるマニュアルに基づいて確実にを行い、市民生活に支障がでないように努めること。	R3	継続
7	近年の短時間集中降雨も想定した、災害に強い配水管及び下水管、雨水管の敷設を進めること。	R3/R5	強化

会計・行政委員会

番号	内容	提案年度	種別
1	現金レス収納の推進と検証を進めること。	R2	継続
2	各委員会の活動の見える化を図ること。	R2	継続
3	選挙管理委員会の作業の見直しによる簡素化や申請書類の電子化を推進すること。併せて、選挙公報の電子化を受け、告示翌日にネット掲載すること。	R2/R3/R5	強化
4	投票・開票において、スムーズな開票作業とタイムリーな情報提供を図ること。	R2	継続
5	農業委員へのタブレットPC配布について、十分な活用ができているか検証を進めること。また、農業委員会での報告資料を議会にも提供すること。	R4/R5	強化

教育委員会

番号	内容	提案年度	種別
1	通学においては、地域の方々の見守り等安全対策に万全を期すこと。通学路についても、草刈りやグリーンベルトの塗り替え等計画を立てて行なうとともに、常に交通状況の変化を見落とすことのないように注意すること。	H27/R4	継続
2	スクールバス等通学に係る通学手段の確保を図ること。	R1/R5	強化
3	学校の施設設備の整備を計画的かつ迅速に進めること。また、山林に接する学校については、グラウンドも含めて、鹿や猪等が入り込まないようフェンスを設置すること。	R4	継続
4	学校行事、出張、各種研究の精選、人的配置等により、教職員の多忙化解消・心のケアに努め、労働安全衛生法に基づく適切な勤務環境への改善に努めること。		継続
5	「ひまわり特別支援学校」の充実を図るとともに、地域校についても、引き続きバリアフリー化等施設設備の充実、人的配置、通学支援等について考慮すること。	H26	継続
6	特別支援学級については、個々の児童生徒に対応した指導ができるよう、定数改善を国に対して働きかけること。	R3	継続
7	個々の児童生徒に応じたきめ細かい教育の実現に向け、さらなる少人数学級を推進すること。また、学校現場の実情に応じ、教職員の増員を図ること。	H26	継続
8	カウンセリングを必要とする児童・生徒が増加していることから、スクールカウンセラーを全校配置し、心のケアを充実すること。	H26	継続
9	「虐待」「いじめ」「不登校」などの防止・早期発見と問題解決に向け、学校だけでなく保護者・地域・警察などと連携を強化すること。また、配布された「タブレット」を活用し、児童・生徒が気軽に相談でき、「いじめ」等の芽を摘み取る対応を研究すること。	H24/R4	継続
10	児童生徒支援加配教員の増員と研修の充実を図ること。	H23	継続
11	学校給食においては、何より安心・安全を第一とすること。また、早期の学校給食の無償化に取り組むこと。	H25 /H28	継続
12	現行の給食費では、十分な栄養バランスが保てないことから、当面は給食費見直しや予算増などで、子供たちに充実した美味しい給食を提供すること。	R3	継続
13	教材費や校外学習等に係る保護者負担の軽減、教育環境の整備を図ること。		継続
14	子どもの将来に影響を与えるような「ほんもの」に触れ、夢と感動を体験できる機会を継続すること。	H25	継続
15	GIGAスクールの導入にあたり、タブレットパソコンの使用法の確立とネット環境などによる社会的格差を出さないこと。	R2/R3	継続
16	これからのICT社会に向けた教育体制の確立と人材の育成を進めること。	R2	継続
17	幼小中学校の再編については、三田市全体の課題として市民と共有し、スピード感を持って対応すること。とりわけ、長坂中学校・藍中学校の再編策と地域再生を進めるフラワータウンにおける小中学校の再編については、待ったなしで取り組むこと。	R3/R4	継続
18	小中一貫教育の準備を早急に進めること。	R3	新規
19	SDGsを環境基本教育の柱に据え、持続ある地域社会・経済活動などについて環境の大切さをしっかり教えること。	R4	継続
20	中学校部活動地域移行にあたり、合同部活の課題を見据え、社会教育との連携で円滑な移行を図ること。	R4/R5	強化

消防本部

番号	内容	提案年度	種別
1	消防職員の計画的な採用に努め、実質定数を満たすよう努力すること。	R1	継続
2	自主防災組織の結成やその育成に努力してほしい。		継続
3	消防団の災害時対応については、何よりも団員の安全に十分配慮すること。		継続
4	中高層建築物火災時に出動可能な要員の確保と急増する救急業務、並びに大規模災害時に対応できる出動体制の増強を図られたい。		継続
5	女性の消防士・救急救命士の配置を促進すること。	H28 /R1	継続
6	神戸市との消防指令業務の共同運用については、市民の命と財産を守りつつ、より広域的で効率的な運用を図ること。	R4	継続
7	市民病院の再編統合を見据え、最適な救急経路・搬送システムの構築を調査研究すること。	R5	新規

市民病院

番号	内容	提案年度	種別
1	来る急激な高齢化を鑑み、健康と命を守る高度で総合的な医療機関として、機能の充実を図ること。	H27	継続
2	医師・看護師の確保を継続的に行い、病院機能の維持向上に努めるとともに、医療スタッフと患者との信頼関係向上に努めること。		継続
3	医療事故の撲滅と医療技術の向上に努めること。		継続
4	時間外勤務の縮減等、医師や看護師などの働き方改革に対応できるよう、就労環境の整備充実と人員の確保に努めること。	R4	継続
5	地域の医療機関と連携し、そのリーダーとして、地域医療の充実を図ること。	H24	継続
6	診療費の未収の縮減に努めること。	H23	継続